

# イスラエル・パレスチナ紛争遺族会について

## 1 遺族会の概要

イスラエル・パレスチナ紛争遺族会（PCFF＝The Parents Circle Families Forum）

紛争で親族を亡くした、600以上の家族により構成されたイスラエルとパレスチナの共同体（非営利組織）。

イスラエルとパレスチナの和解による持続可能な和平実現に向け、「対話と出会い」をテーマにした幅広い活動を展開し、紛争遺児のサマーキャンプなども開催している。

こうした中で、2003年（平成15年）の綾部市開催以降10回にわたり開催されてきた「中東和平プロジェクト」においては、紛争遺児たちを招へいする際の窓口として協力を得てきた。

## 2 プロフィール

<パレスチナ側> Amal O. T. Abuayyash（アマル・アブ・アヤシュ）

※2013年（平成25年）中東国際交流プロジェクト in 京丹後に紛争遺児の1人として参加（8/17開催の交流会で当時のホストファミリーとの再会を実現）

1994年（平成6年）12月11日、パレスチナ・ベツレヘム生まれ。大学では社会学を学ぶ。卒業後パレスチナで事務員、コピーライターとして働く傍ら、紛争遺族会のサマーキャンプで世話人として活躍。

アマルは生前1982年（昭和57年）に故郷のベイト・オマルで祖父を失う。2度目のインティファダ（パレスチナ人民蜂起）で再びアマルの家族を悲劇が襲い、2003年（平成15年）叔父の2人がイスラエル兵士により殺害。当時まだ子どもだったアマルは、母親・祖母が愛する家族を失った悲しみに苦しんでいた姿を覚えています。

数年後、アマルの父親が親戚の勧めで、紛争遺族会に入会し、その後すぐに、アマル自身も熱心な会員となりました。その目指すべきところは崇高なもので、パレスチナの人々に自由、尊厳、希望、平等を取り戻すことです。

「真剣に考え、分かりました。私達が成すべきことはパレスチナ・イスラエル紛争解決への平和的な道を見出すことです。」



<イスラエル側> Yifat Mohar（ヤイファット・モハル）



1969年（昭和44年）3月14日、エルサレム生まれ。3人の息子を持つ母親。文学、ライティング（文章書き方）の教師、読書療法士。

ヤイファットは生前1948年（昭和23年）の戦争で叔父を失う。1975年（昭和50年）レバノン戦争では、イスラエル北部国境において、イスラエル国防軍兵士であった兄のモシェを失い、母親と同じように、紛争遺族（戦死者の妹）となった。

40年が経過し、ヤイファットは息子が兵役に就こうとした時、母として紛争遺族会に入会。自分の子ども達、将来の世代にとってよりよい世界を創造するために行動を起こさなければならないという強く感じた。現在、様々な教育、平和推進の講演者として、常にパレスチナ人のパートナーと共に紛争遺族会に貢献している。

「私達の出会った若者、特に兵役入隊前の若者の反応は、私に希望を与え、そしてより前向きにさせてくれるのです。」